ottobock.

オットーボック製品 取扱説明書

製品名： ポジショニングシステムバギー
キンバ ネオ
（Kimba Neo）

品番 470G71=10000_K
470G71=20000_K

2014 年 7 月版

はじめにお読みください

本書は、ご家庭、施設、職場などで「キンバ ネオ」を操作される介助者の方に読んでいただくものです。使用の前に、この取扱説明書を良くお読みになり、内容を充分にご理解お願い致します。また、お読みになった後、手元に保管し、お子様の身体状況に変化があった場合、使用に関して不明な点がでた場合などは、必要に応じて繰返しお読みください。
この取扱説明書に従って使用いただけない場合、お子様や、介助者が事故を起したり、ケガをする恐れがあります。

＊本製品は、本書の説明の内容ならびに、使用目的に従って使用された場合にのみ、保証の対象となります。
本書は弊社のホームページからも PDF の形式でダウンロードできます。本書の内容に関してのご質問は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

目　次

1章　はじめに

1．1 序文

この度はオットーボック社の「キンバ ネオ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この製品は調整機能を有した、高品質な小児用バギーです。小児用バギー「キンバ ネオ」は日常的な使用をはじめ、室内および屋外の移動に使用いただけます。バギーを使用になる前に、必ず3章「安全にお使いいただくために」および4章「納品と使用準備」をお読みください。

6章「各部の使用方法（オプションも含む）」では、「キンバ ネオ」の使用範囲を広げ、バギーを使用する利用者の身体や環境に合わせることができるいくつかの付属部品を紹介しています。

各利用者のバギーが、本書で図解したモデルと異なる場合や本書に記載された付属部品が使用できない場合があります。

1．2 使用目的

小児用バギー「キンバ ネオ」は主に歩行ができない、もしくは歩行が困難な方が移動、および生活をするために、介助者の介助により室内外で使用していただくバギーです。お子様の身長、体重にもよりますが1歳から10歳までのお子様、一人用に作られており、介助者によって操作されます。お子様の状態、状況に合わせて最適に適合することができます。

⚠ 注意	● 記載されている「使用目的」以外で使用した場合の事故および故障などは保証の対象となりません。

2章　各部の名称

キンバ ネオ（マルチファンクションシートユニット付き屋外用バギーフレーム）

① 後輪タイヤ
② 前輪キャスター
③ 車載用フック（前）
④ 高さ調整機能付きフットプレート
⑤ 取外し可能チルト機能付きシート
⑥ 角度調整機能付きバックサポート
⑦ 高さ調整機能付きプッシュハンドル
⑧ 折りたたみ用フック
⑨ 車載用フック（後）
⑩ サスペンション

キンバ ネオ（屋外用バギーフレーム）

① 後輪タイヤ
② 前輪キャスター
③ 前輪キャスターロック
④ 車載用フック（前）
⑤ シートユニット受けアダプター
⑥ 高さ調整機能付きプッシュハンドル
⑦ 折りたたみ用フック
⑧ シート用チルトレバー
⑨ 車載用フック（後）
⑩ サスペンション

3章　安全にお使いいただくために

3．1 記号の意味

警告
取扱いを誤ると、「人が死亡又は重症などを負う可能性が想定される」ことを警告する表示です。

注意
取扱いを誤ると、「人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生が予測される」ことを注意する表示です。

アドバイス
守っていただきたいこと、また、知っておくと便利な事項の表示です。

3．2 総合的な安全に関する注意事項

⚠ 警告	● はじめに取扱説明書（以下本書）をよくお読みください！使用の前に、「製品の操作と機能」についてよく理解してください。次に、それぞれの操作ができるかどうか確認し、必要に応じて練習してください。記載事項を守っていただかない場合、利用者自身の安全を損なう可能性があります。

⚠ 注意	● どのような場合においても状況により事故がおこる可能性があります。利用者だけでなく、介助者の方も安全に関する事項について日頃から充分にご留意ください。 ● ご質問、または本書を読んでも問題が解決されない場合は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

3．2－1　使用準備の際の危険

⚠ 警告	● **介助者が設定を行う場合の危険**　キンバ ネオは利用者に合せた状態で納品されます。納品後の調整については、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。最適な使用を長期間保証するため、定期的なバギーの調整を推奨します。特に成長期の子どもや青少年には、6ケ月毎の調整が推奨されます。 本書の第6章「各部の使用方法」に記載記されている部分は介助者による設定が可能ですが、販売店にご連絡いただくことをお勧めします。設定に不具合（シーティングポジションが適切でない、キャスターのガタつき等）がでた場合にはお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。 また、設定を変更される場合は、身体的危険や治療が妨げられないように、いかなる設定に関しても通われている病院、施設、学校等の医療従事者の方にご相談ください。 ● **梱包材の取扱いの危険**　包装材料は乳幼児の手の届かないところに保管してください。口に入れたり頭からかぶるなどして窒息のおそれがあります。

3．2－2　使用に際しての危険

⚠ 注意	● **介助者なしでの転倒の危険**　バギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがあります。お子様がシートベルトをして、車輪にロックがかかっていても、決してバギーから離れることはしないでください。 ● **誤って持上げた際の負傷の危険**　介助者はバギーを持ち上げる際に、フレーム本体に固定された部分のみを掴んで下さい。フットプレート、プッシュハンドル、骨盤サポートやアームサポートなどは持たないでください。外れてバギーを落とすなど、重大な事故につながる恐れがあります。 ● **未経験者の事故の危険**　バギーを初めてお使いになる介助者は、まず初めに平らな、見通しの良い場所でバギーの取扱いを練習してください。傾斜のある道、上り坂、全ての勾配、または障害の乗越えなどについては、必ず他の介助者の補助のもとでバギーの操作方法を確認してください。 ● **皮膚の状態が正常でない場合の合併症の危険**　皮膚の状態が正常でない場合、もしくは、免疫力が極端に低下している場合などにバギーを使用すると、皮膚が赤くなったり褥創などを引起こす可能性があります。臀部、背や大腿の裏側など、部分的に長時間負荷のかかる部位の皮膚の状態は、バギー使用の前に特に入念にチェックしてください。医療的傷害、または身体状況に関連して発生した健康上の被害については、賠償義務を負いません。

3．2－3　乗車・降車に際しての危険

⚠ 警告	● **足台に体重をかけての介助による傷害の危険**　介護者はフットプレートに乗って、バギーを操作しないでください。バギーが傾きお子様が落ちる恐れがあります。 お子様をバギーに乗せるときはフットプレートをたたんでおいてください。フットプレートを下に降ろしてしいるとお子様にぶつかる恐れがあります。

⚠ 注意	● **乗降時のブレーキ不使用による危険**　常に車輪にロックがかかっているかを確認してから、お子様をバギーへ乗せる、またバギーから降ろしてください。バギーを傾斜のある場所や不整地で止める際は、バギーが勝手に動き出さないように車輪にロックをかけてください。

３．２- ４　走行に際しての危険

⚠ 警告	● **高速での操作による危険**　バギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがありますので、スピードを出してバギーを押さないでください。 スピードが出すぎるとキャスターがぐらつく恐れがあります。また、急にバギーを止めるとお子様が前方に倒れる恐れがあります。バギーは普通に歩くスピードで使用してください。またできる限り前輪キャスターのロックをかけ、前輪を固定した状態でバギーを使用してください。（第６章「各部の使用方法」をご参照ください。） ● **介助者の手放しによる危険**　バギーを押している際にプッシュハンドルを離すことは絶対にしないでください。 ● **誤った使用方法による危険**　この製品はジョッギングやランニング、スケートをするようには作られていません。そのような状況で使用するとバギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがあります。 ● **キャスターや後輪による危険**　踏切や溝などのある所ではキャスター等が溝にはまり、予期せずバギーが動かなくなり重大な事故につながる恐れがあります。不整地や溝がある所では充分に注意し、踏切等を通過する際には、時間に余裕を持って行動してください。 ● **坂道や駅のプラットフォーム等での危険**　坂道の途中で停止する際は必ずブレーキをかけてください。また、道路や駅のプラットフォームなどは平らに見えても勾配がありますので、停止される際は必ずブレーキをかけてください。急にバギーが動きだし、転落や転倒などにより死亡や重大な事故につながる恐れがあります。また、プラットフォームや信号待ちなどの際には、介助者はできるかぎり目を離さないようにし、ブレーキがかかっていることを確認してください。 ● **暗闇の中での走行による傷害の危険**　暗闇の中では、車や通行人の目に付きやすいように、明るい服または反射板の付いた服を着るようにしてください。バギーの側方や後方などのよく見える部分に、適切な反射板を取付けてください。照明装置（照明用ライト）を取付けることもお勧めします。 ● **不意の後輪脱落による転倒の危険**　後輪のクイックリリース軸が常にしっかりと取付けられているか確認してください。クイックリリース軸のボタンが押されていない状態で後輪を取外さないでください。 ● **重心の延長による転倒の恐れ** バギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがありますので、お子様が（バギーの前方、側方、後方にある）物を取る時には、シートよりあまり過度に身を乗り出さないようにしてください。重心のバランスが崩れ、転倒するなどの恐れがあります。 傾斜のある所や不整地を移動する際には事前にシートのチルト角度をニュートラルのポジション（0-5°）にしてください。また、坂道を下る場合は常に後を向いてバギーを支えながら移動してください。シートを前傾でチルトした状態にしないでください。お子様を乗せている時には傾斜地でバギーを駐車させることは避けてください。 重いバックをバギーにかけると重心が変わり、バギーが転倒し、お子様が投げ出される恐れがありますので、重い荷物をバギーに乗せることやプッシュハンドルに掛けることはしないでください。

３．２- ５　不整地や障害物がある場所に関しての危険

⚠ 警告	● **誤った移動によるの危険**　バギーが転倒して、お子様が投げ出される恐れがありますので、階段では必ず他の人の助けを借りてバギーを押してください。またスロープやエレベーター等をできるだけ使用するようにしてください。お子様を乗せたままでエスカレーターを使用しないでください。

３．２- ６　火・熱または過冷却による危険

⚠ 注意	● **極度の気温での注意**　バギーは直射日光の当たる場所やサウナの中などでは、非常に高温になることがあります。また、極度の低温では過冷却の危険があります。その様な条件下でフレームなどに接触した場合、重大な身体的事故につながる恐れがあります。 ● **火の取扱いにおける火傷の危険**　シートクッションと背もたれのカバー素材は、引火することがあります。あらゆる火の元、特にタバコの火には気をつけてください。

３．２- ７　バギーの破損についての注意

⚠ 注意	● **磨耗による損傷**　バギーの座面や背面は、摩擦により擦り切れる可能性があります。破れや磨耗などに気がついた場合は、安全のためすぐに交換するようにしてください。 ● **折りたたみ時の取扱い**　折りたたんだ状態のバギーフレームの上には重いものを絶対に置かないで下さい。フレームなどの変形や、フレームを正しく開くことができなくなる可能性があります。 ● **海水や砂地などでの取扱い**　バギーを塩水（海など）の中で使用しないでください。また、車輪のベアリングやロック機構を破損する可能性がありますので、砂やその他の埃をできるだけ避けてください。
アドバイス	● **重量超過による破損**　キンバ ネオの最大荷重（シートは 40kg、フレームは 55kg）を超えて使用しないでください。（8 章「テクニカルデータ」の項目をご参照ください。）大量の手荷物などがある場合にはご注意ください。また、お子様の体重を常にチェックされることをお勧めします。オプションや取付けられた部品も荷重に含まれますのでご注意ください。

３．２- ８　車載について

⚠ 警告	● **バギー車載する際の警告**　利用者を乗せた車いすやバギーを車に搭載して移動する際に、利用者用のシートベルトとして安全ベルト類、姿勢保持サポート製品を使用することは禁じられています。ベルト類や姿勢保持サポート製品は利用者が車いす、バギーに座っている際に姿勢の保持をサポートすることを目的としてとして、車いすやバギーに装備されているものです。 事故があった場合にお子様がバギーから投げ出される、重傷を負う場合があります。

３．２- ９　その他の注意

⚠ 注意	● キンバネオには本書､オーダーシートに掲載してあるオプション製品のみが装着可能です。オットーボック社以外のメーカーによって製造された医療機器、アクセサリーを装着した場合の責任は負いかねます。 ● 調整、修理はお買い上げいただいた販売店に依頼をお願いいたします。また、問題が発生した場合も販売店にお問合せをお願いいたします。修理に必要な部品はオットーボック社製の製品をお使いください。 ● オットーボック社が推奨している以外の製品と一緒にご使用になられた場合の責任は負いかねます。 ● オットーボック社は本書で説明しているモデルをマイナーチェンジする場合があります。

４章　納品

４．１ 納品

納品時に含まれる製品は、以下となります。
- ・屋外用キンバフレーム本体
- ・マルチファンクションシートユニット（標準仕様）またはその他のシートユニット
- ・オプション製品
- ・取扱説明書（本書）

バギーはシートユニットが取り外され梱包された状態で納品される場合があります。
その際には 5.1「組立」の項を参照してください。

４．２ 標準仕様

キンバ ネオの標準仕様には以下のものが含まれています。
- ・折りたたみ可能屋外用キンバフレーム本体
- ・マルチファンクションシートユニット（標準仕様）またはその他のシーティングユニット
- ・パッド
- ・高さ調整機能付きフットプレート
- ・取外し可能な後輪タイヤ
- ・前輪自在キャスター（ロック機能付き）
- ・高さ調整機能付きプッシュハンドル
- ・車輪ブレーキ（後輪フットブレーキ）
- ・取扱説明書 (本書）

４．３ オプション

標準仕様にさまざまなオプションを付けることで、利用者の個々のニーズに適合させることができます。
これらのオプションの使用方法は 6 章 13 ページ以降をご覧ください。

４．４ 保管

乾燥した場所に保管してください。高温、低温になる場所は避け、-10℃から 40℃にて保管してください。

⚠ 注意	● **タイヤに関しての注意**　タイヤは化学物質を含んでいますので、洗浄剤や酸等の他の化学物質に反応することがあります。直射日光や紫外線によりタイヤの消耗が早まり、表面が硬くなることや、溝の角が崩れてきますので、屋外にての長時間の駐車はできる限り避けてください。タイヤの摩耗の状況に関わらず、2 年ごとに交換することをお勧めします。

５章　使用準備

５．１ 組立

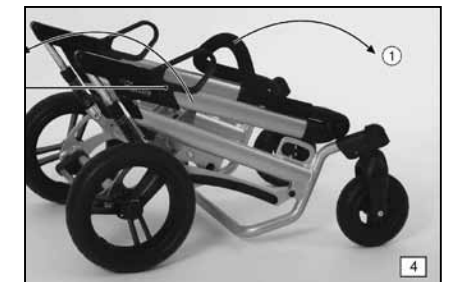
⚠ 警告	● **手を挟む危険**　折りたたんだり、広げたりするときには開閉機構に手を挟まれる恐れがありますので、以下の説明で指示された部分だけを持ってください。

⚠ 注意	● **転倒の危険**　正しく組立てられていないと、バギーが転倒したり、お子様が落ちる恐れがあります。後輪タイヤを組立てた時は必ず適切な取付け状態であるかをチェックしてください。車軸アダプターに必ず車軸がしっかりとはめ込まれていなければなりません。 - バギーを使用する前に、開閉機構がしっかりロックされているかを確認してください。 - シートユニットを取り付ける時はカチッと音がしてフレームにしっかりはまったかを確認してください。 - シートユニットのロックが掛っているかを確認してください。

以下の手順で組立ててください。

後輪タイヤの取付け（後輪タイヤが取り外されて納品された場合）

後輪タイヤにブレーキがかかっている場合にはブレーキを解除してください。（6.6.1 をご参照ください。）
後輪タイヤのロック部分を指で持ち（写真 3)、車軸を車軸受けに対して真っ直ぐに差込み、ロックが掛る音がするまで差込んでください。

フレームの開閉（シートユニットが取り外されて納品された場合）
プッシュハンドルの両側の丸いボタンを同時に押し、プッシュハンドルをキャスター方向に開きます。（写真 4- ①）

プッシュハンドルを持ち、ロックが掛る音がするまで上に引き上げてフレーム本体を開きます。（写真 5）

シートユニットの取付け　（マルチファンクションシートユニット）

⚠ 注意	● シートユニットの向きを変える前に、安全のためにチルトリミット機構を再調整する必要があります。チルトリミット機構を調整しないとお子様が落ちる恐れがあります。

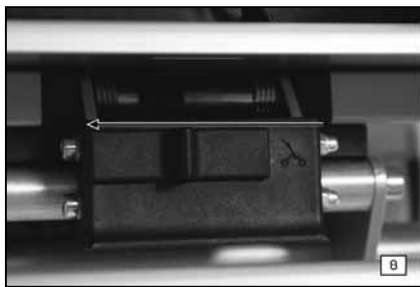
アドバイス	● フレームには他のシーティングシステムを取り付けることも可能です。この場合は使用するシートユニットの取扱説明書を良く読んで守ってください。

1）バックサポートの上端と座面シートの前端を持ち、シートユニットを後方 45° に傾けて取付けアダプター後方部分をシートユニット受けの後方パイプにはめ込みます。（写真 6）

2）座面シートの前方の端を押し、取付けアダプター前方部分がシートユニット受け前方のパイプにはまるまで押下げます。（写真 7）

3）シートユニット取付けアダプター前方にあるシートロックを左側にスライドさせてロックをかけます。（写真 8）

4）シートユニットのバックサポート部分を後ろに引くなどして、シートユニットがフレームにしっかり固定されているかを確認してください。

6章　各部の使用方法（オプションも含む）

6．1 使用の際の注意

⚠ 警告	● **介助者が設定を行う場合の危険**　バギーが転倒する等の恐れや、お子様の座位が正しく取れない恐れがありますので、納品時の設定を変えないでください。設定に不具合（シーティングポジションが適切でない、キャスターのガタつき等）が出た場合にはお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

⚠ 注意	● お子様の安全のために、使用される前にバギーが正しく機能するかをチェックしてください。7.1「メンテナンス」の項目も良く読んで機能をチェックしてください。 ● バギーの使用が初めての方、慣れていらっしゃらない方は最初に平らな広い場所で練習してください。

お子様の安全のために、使用される前には必ず下記の点をお確かめください。

1）後輪タイヤがしっかり取付けられているか

2）シートユニットのロックがかかっているか、リクライニング機構のネジが締まっているか

3）全てのベルトのバックルが正しい位置にあり、きちんと機能しているか

6．2 マルチファンクションシートユニット（標準シートユニット）

アドバイス	● フレームには他のシーティングシステムを取り付けることも可能です。この場合は使用するシートユニットの取扱説明書を良く読んで守ってください。

6．2．1　シートユニットの取付け／取外し

⚠ 注意	● シートユニットが正しく設置されていないとシートが外れて、お子様が投げ出される恐れがあります。シートユニットを設置した時はカチッという音でフレームに取り付けられたか確認してください。シートユニットのロックを必ずかけてください。

バギーを車等に搭載する際に、シートユニットとフレームを分けて運ぶことができます。シートユニットは簡単に取外し、取付けることができます。

シートユニットの取外し

1）シートユニットの正面にあるロックを右側にスライドさせてロックを解除してください。（写真 9）

2）シートユニットの横側に立ってバックサポートの上端を片手で持ちます。

3）シートの下にあるレバーをシートの前端に方向に引いて（写真 10)、シートアダプターをパイプから外します。

4）バックサポートを後方に 45° 傾けて、シートを上に持ち上げます。（写真 11）

シートの取付け

シートの取付けは 5.1 組立の項を参照ください。

シートユニットの向きを変える

シートユニットの向きを変える前に、安全のためにチルトリミット機構を再調整する必要があります。シートユニットの取外し、取付けに関しては、5.1 組立の項を、チルトリミット機構の調整に関しては下記の 2 項をご参照ください。

6．2．2　シートユニットの向きを変える

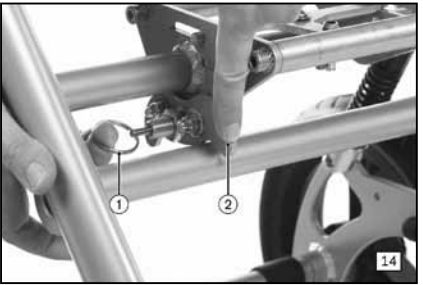
⚠ 注意	● シートユニットの向きを変える前に、安全のためにチルトリミット機構を再調整する必要があります。チルト機構が正常に作動しないとお子様が落ちる恐れがあります。

シートユニットは二つの向き（対面式、背面式）に設置が可能です。(写真 12 と 13)

シートユニットの向きを 180° 回転させて設置した時にはチルトリミット機構を再調整する必要があります。
(調整の仕方は次の項をご参照ください。)

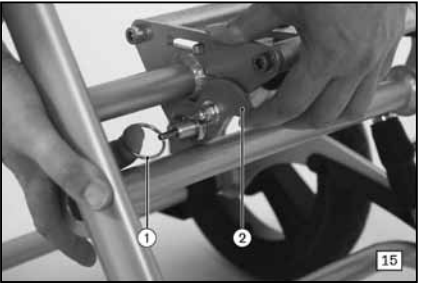
6．2．3　シートを回転させた時のチルトリミット機構の調整の仕方

シートアダプターにはチルトリミット機構という安全性をさらに高めた機能が装備されています。この機能はシートユニットの角度が許容限度を超えて前方と後方に設定されないようになっています。（写真 14）

シートの向きを変える前には、常にチルトリミット機構を調整し直さなければなりません。

1）チルト機構を使用して（写真 18）シートユニットが止まるまで前方に倒します。→シートは前方に約 10％チルトします。

2）シートユニットを取り外します。（写真 15）→シートユニット受けを直接動かすことができます。

3）キーリングを引き（写真 14・15 ー①）ロックピンを解除します。リミットフックを動かし（写真 14.15- ②)、シートが設置された向きに合せてシートユニット受けを希望する位置に設定します。
→背面式で使用する時には、リミットフックを下げてください。(写真 14)
→対面式で使用する時には、リミットフックを上げてください。(写真 15)

4）調整をした後はロックピンをカチッと音がするまで元に戻してください。

5）シートユニットを設置します。

6）チルトリミット機構が正常に作動するかを確認してください。
→　チルト機構が正常に作動し（写真 18)、シートを前方・後方に動かすことができる。
→　シートユニットの調整範囲は前方に約 10°、後方に約 35° を超えない範囲で調整できます。この範囲で調整できない場合はリミットフック（写真 14.15- ②）が正しい位置に戻されていませんので再度上記の 2 ～ 6 の手順で調整する必要があります。

6．2．4　バックサポートの調整（リクライニング角度調整）

注意	● **バックサポートの角度を調整することにより重心の位置が変わる恐れ** 重心が変わることにより、バギーが転倒し、お子様が落ちる恐れがありますので、バックサポートの角度を調整した後は、両手でプッシュハンドルを持ってバギーが安定しているかを必ず確認してください。バックサポートは 90°から 180°の範囲で調整することが可能です。

1）バックサポート裏側の下のノブを反時計（左）周りにまわして、バックサポートのリクライニング機構のロックを解除してください。（写真 16）

2）バックサポートを希望する位置まで前又は後に動かしてください。フルフラットにまで設定することができます。（写真 17）
アドバイス：シートをフルフラットにした場合は、フットプレートを調整して、お子様が足を快適に伸ばせるようにしてください。

3）ノブを時計（右）周りに回転させてバックサポートの角度を固定してください。

6．2．5　シートのチルト角度の調整

注意	● シートのチルトがきちんと作用しないとお子様が前のめりになったり、落ちる恐れがあります。 初めてシートのチルト角度を変更する場合はお子様を乗せずに調整の練習をしてください。 シートのチルト角度を変更する前に、必ずブレーキをかけてください。 シートのチルト角度を調整するときはお子様の上体を支える等してお子様が前や後ろに倒れないように注意してください。お子様の安全のために必要ならば、片手でバックサポートを持つか、シートを下から支えてください。

シートのチルト角度は -10°から +35°の範囲内で調整することができます。

1）シート裏側の上のノブを時計（右）周りにまわして、角度の調整ができるようにしてください。

注意	● ノブは普通の力で抵抗がなくなったと感じるところまで回してください。ノブを回しすぎると調整機構が壊れる恐れがあります。

2）シートを希望の角度に設定してください。（写真 19）

警告	● 片手でお子様の上体を支える等してお子様が倒れないように注意してください。

3）ノブから手を離します。→　調整機構は自動的にロックされます。

4）バックサポートを前後に押して、角度がしっかり固定されているか確認してください。バックサポートが動くようでしたら、上のノブが正しい位置に戻っているかを確認してください。

6．3 その他のシーティングシステムを使用する場合

アドバイス	● その他のシーティングシステムを使用する場合は、使用されるシーティングシステムの取扱説明書を良くお読みになって、守ってください。 マルチファンクションシートユニット（標準シート）の使用方法は下記をご参照ください。 シートユニットの取付け / 取外し：6.2.1　11 ページ シートユニットの回転：6.2.2　12 ページ シートユニットを回転させた後にチルトリミット機構を再調整する方法：6.2.5　14 ページ

6．3．1　シート角度の調整

注意	● シートのチルト機構がきちんと作用しないとお子様が前のめりになることや、落ちる恐れがあります。初めてシートのチルト角度を変更する場合はお子様を乗せずに調整の練習をしてください。 シートのチルト角度を変更する前に、必ずブレーキをかけてください。 シートのチルト角度を調整するときはお子様の上体を支える等してお子様が前や後ろに倒れないように注意してください。お子様の安全のために必要ならば、片手でバックサポートを持つか、シートを下から支えてください。

他のシーティングシステムを使用される場合は、シートは -10°から +35°の範囲内で調整してください。

1）バギーの左側に立って、安全のためにバックサポートを持っていてください。（写真 20- ①）

2）フレーム上部にあるノブを矢印の方向にひねって、角度の調整ができるようにしてください。（写真 20- ②）

注意	● ノブは普通の力で抵抗がなくなったと感じるところまで回してください。ノブを回しすぎると調整機構が壊れる恐れがあります。

3）シートを希望の角度に設定してください。（写真 21）

4）ノブから手を離すと、調整機構は自動的にロックされます。

5）バックサポートを前後に押して、角度がしっかり固定されているか確認してください。バックサポートが動くようでしたら、上のノブが正しい位置に戻っているかを確認してください。

6.4 フットプレート（マルチファンクションシートユニット）

⚠ 警告	● お子様をバギーに乗せるときはフットプレートをたたんでおいてください。フットプレートを下に降ろしてしいるとお子様がぶつかる恐れがあります。 ● 介護者はフットプレートに乗って、バギーを操作しないでください。バギーが傾きお子様が落ちる恐れがあります。 ● フットプレートを使用してバギーを持ち上げたり、移動しないでください。バギーが転倒する等の恐れがあります。

❗ アドバイス	● その他のシーティングユニットを取り付けることも可能です。その際は使用されるシーティングユニットの取扱説明書を良くお読みになって、守ってください。

6.4.1　膝角度の調整

フットプレートを膝の角度に合せて調整することができます。調整範囲は 0° から +90° になります。

1）フットサポート右上の調整レバーを反時計回りにまわしてください。（写真 22）

2）お子様の膝の角度に合せてフットプレートの角度を調整してください。

3）調整レバーを時計回りにまわして､再びしっかり締めてください。

4）使用する前にフットプレートを押し下げて、希望の位置で固定されているかを確かめてください。→その状態で角度の再調整はしないでください。

6.4.2　フットプレートの折りたたみ

フットプレートは持ち運ぶ際には折りたたむことができます。

標準プットプレートの場合

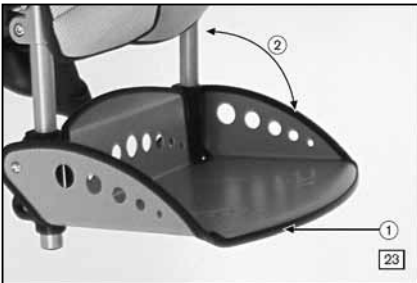
1）フットプレートの端を持ち（写真 23- ①）上に折りたたみます。（写真 23- ②）

2）フットプレートは端を持って押し下げることで開くことができます。

角度調整機能付きフットプレートの場合

1）ストラップを引いてロックを外してください。

2）ストラップを引いたまま､フットプレートを上に折りたたみます。

3）フットプレートを使用する場合は押し下げてください。ロックは自動的にかかります。

6.5 プッシュハンドル

⚠ 警告	● プッシュハンドルを握って、バギーを持ち上げないでください。バギーが転倒して、お子様が投げ出される恐れがあります。

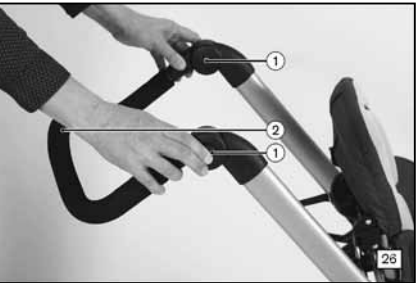
6.5.1　プッシュハンドルの調整

プッシュハンドルは好みの高さに調整することができます。

1）プッシュハンドルの両側にある丸いボタンを左右同時に押してください。（写真 26- ①）

2）ボタンを押したままで、プッシュハンドルを好みの高さに動かしてください。（写真 26- ②）

3）好みの位置でボタンを離します。

4）プッシュハンドルを少し上下に動かして、カチッと音がして位置が固定されるのを確認してください。

6.6 ブレーキ

⚠ 警告	● バギーにお子様を乗り降りさせる時には必ず車輪のブレーキをかけ、ブレーキがきいているかを確認してください。ブレーキをかけることにより、傾斜のある所や不整地、車に乗せている時などにバギーが勝手に動き出すのを防ぐことができます。

⚠ 注意	● ブレーキを正しく使用しないと車輪やブレーキ機構が損傷する恐れがあります。あまりに力を入れて、ブレーキをかけないでください。ブレーキが良くかかっていないと感じた時は、車輪を少し前後に動かしてください。ロックピンがブレーキリングにしっかり収まるようになります。

6.6.1　後輪タイヤにブレーキをかける

バギーにお子様を乗り降りさせる時、傾斜のある所でバギーを止めるときは、必ず後輪タイヤのブレーキを下記の方法でかけてください。

1）ブレーキをかける：ブレーキバーを足のつま先で押下げます。（写真 27）

2）ブレーキを外す：足のつま先でブレーキバーを押し上げます。（写真 28）

6．7 サスペンション

6．7．1　サスペンションの調整

サスペンションの強度はお子様の体重や道路の状況などに合わせて調整することができます。

1）フレームの両側に調整用のリングがありますので、左右等しく回して調整してください。（写真 29- ①）
　→　時計（右）周り：サスペンションが硬くなります。
　→　反時計（左）周り：サスペンションが柔らかくなります。

2）調整用リングの位置が左右同じであることを確認してください。
目安として 4 段階のマークをつけています。
（写真 29- ②、写真 30 － ①）
スプリングの硬さを下記のように推奨します。

お子様の体重	マークの目安＊
10Kg まで	上から第 1 番目までに設定
20Kg まで	上から第 2 番目までに設定
30Kg まで	上から第 3 番目までに設定
40Kg まで	上から第 4 番目までに設定

＊プラスチックナットの上端をマーク合せた場合。

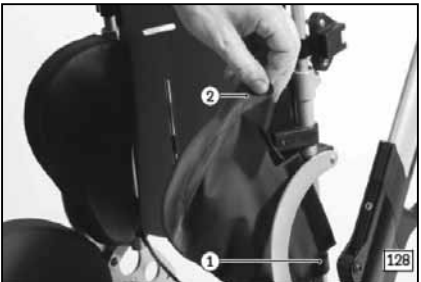
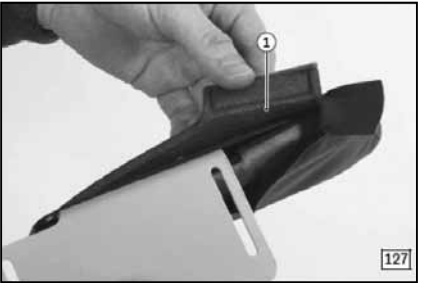
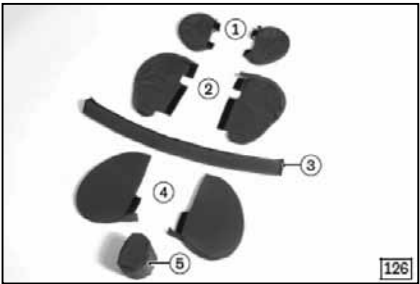
6．8　オプション

キンバ ネオは追加のオプションを使用することが可能です。
オプション製品はお買い求めになられた販売店によって納品時に装着され、調整されています。

シートカバーの取付け、取外し

アドバイス

●以下のシートカバーを用意しております。
- パッド付ヘッドサポート用カバー（写真 126- ①）
- 体幹サポート部カバー（写真 126- ②）
- パッド付体幹サポート用カバー
- 手すり用パッド（写真 126- ③　交換については 6.8.1 をご参照ください）
- 大腿サポート部カバー（写真 126- ④）
- 内転防止パッドカバー（写真 126- ⑤）

1）必要があれば座シート、背シートのカバーを外してください。
2）カバーのベルクロ部分を開いてください。
3）各パッド又は内転防止用パッドからカバーを取外し、カバーを洗ってください。
4）パッドにカバーを被せてください。その際は次の点に注意してください。
　→　パッドがクッション材で補強されている場合は補強されている側が外側（ネジの出ている側）にくるようにカバーを被せてください。（写真 127- ①）
　→　引き布（写真 128- ②）が付いていない側からカバーをパッドに被せます。（写真 128- ①）
　→　引き布（写真 128- ②）を引張りながらカバー全体をパッドに被せます。
　→　引き布をカバーの内側に折り込んでから、ベルクロ部分を閉じてください。（写真 129）

5）座シート、背シートのカバーを取付けてください。

6．8．1　手すり

⚠ 警告	● 手すりを持ってシートユニットやバギーを持ち上げないでください。転倒する恐れがあります。

アドバイス	● 手すりはオプション製品であるアームサポートやトレイと一緒には使用することができません。

手すりを取り付けることで、お子様が前方に落ちることを防ぎます。
手すりはお子様をバギーに乗せるときは取り外すことができます。

手すりの取付け
手すり取付け台に手すりの両端を押し込みます。（写真 31）

スプリングストッパーを押し（写真 31 － ①）、スプリングストッパーのロックが掛るまで手すりを押下げます。

手すりの取外し
シートユニット前方の両端にある取付け台の下になっているスプリングストッパーを押し（写真 31）、手すりを引き上げます。

6．8．2　アームサポート

⚠ 警告	● アームサポートを持ってシートユニットやバギーを持ち上げないでください。転倒する恐れがあります。

アドバイス	● アームサポートはオプション製品である手すりやトレイと一緒には使用することができません。

アームサポートを取り付けることで腕の位置を保持することができます。
取外し可能なアームサポートは直接シートユニットに取り付けますので、そのままシートの向きを変えることができます。

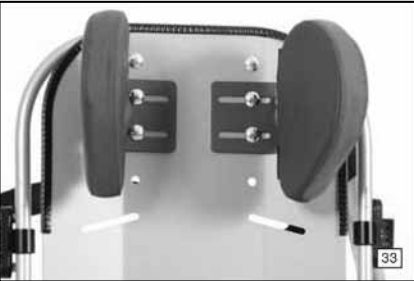
アームサポートの取外し・取付け

アームサポートのスプリングストッパーを押し（写真 32）、アームサポートを取付け台に押し入れます。また、同じようにスプリングストッパー押して、引き上げることで取付け台からアームサポートを取り外すことができます。

6．8．3　ヘッドサポート

ヘッドサポートを取付けることにより、頭部の保持力を更に高めることができます。

6．8．3．1　パッド付きヘッドサポート

パッド付きヘッドサポート（写真 33）は設置する高さを選べるだけでなく、水平方向にも広い範囲で位置を調整できるので、お子様の頭部に合せて位置を設定することができます。お買い求めになられた販売店により既に取り付けられて納品されます。

6．8．3．2　ヘッドサポート付きバックサポート

ヘッドサポート付きバックサポート（写真 34）はクッションを変更することにより水平の位置を 0cm ～ 3cm の範囲で設定することができます。お買い求めになられた販売店により既に取り付けられて納品されます。

6．8．4　安全ベルト

警告	● 正しく使用しないとお子様の頸部を圧迫し、窒息の恐れがあります。 取扱説明書の指示に従い、正しく使用されることで、お子様がバギーから落ちたり、シートからずり落ちることを防ぎます。ベルト類や姿勢保持サポートシステムを使用中はお子様の背中がバックサポートに対してまっすぐになっていることをご確認ください。お子様がベルト類や姿勢保持サポート製品がなくても座位を取ることができる場合は使用しないでください。 ● 利用者を乗せた車いすやバギーを車に搭載して移動する際に、利用者用のシートベルトとして安全ベルト類、姿勢保持サポート製品を使用することは禁じられています。ベルト類や姿勢保持サポート製品は利用者が車いす、バギーに座っている際に姿勢の保持をサポートすることを目的としてとして、車いすやバギーに装備されているものです。事故があった場合にお子様がバギーから投げ出される、重傷を負う場合があります。

さまざまな種類の安全ベルトの装備が可能です。
製品はお買い求めになられた販売店により既に取り付けられて納品されます。ベルトがきつい場合や装着できない場合は、納品後に安全ベルトの調整が可能です。

6．8．4．1　パッド付き骨盤ベルト

骨盤部分の安定をサポートし、お子様がシートからずり落ちるのを防ぐ、パッド付き骨盤ベルトの装着が可能です。（写真 35）

ベルトの長さの調整方法

1） ベルトの端をベルト通しから引き出します。（写真 36- ①）

2） ベルトをしっかり装着し（写真 36 –②）、ベルトの長さを調整します。その際にベルトの端が緩まないようにベルト通しに収めるために少なくとも端を 2cm 残しておいてください。

3） カチッという音が聞こえるまで、バックルに金属部分を差し込み、ベルトを装着します。

ベルトの使用方法

1） ベルトのバックルの中央部分「Push」と印字されている所を押して、バックルを外します。（写真 35- ①）

2） お子様をシートに座らせます。

3） カチッという音が聞こえるまで、バックルに金属部分を差し込み、ベルトを装着します。

6．8．4．2　パッド付 4 点ベルト

骨盤と肩を安定させ、お子様がシートからずり落ちるのを防ぐ、パッド付 4 点ベルトの装着が可能です。（写真 38）バックルを使用しているので着脱が簡単です。

ベルトの調整方法

1） 骨盤ベルトを装着するのと同じように（6．8．4．1をご参照ください）骨盤部分に装着します。

アドバイス	● 骨盤ベルトがシートのパッドの下に入っていた場合は、先ずバックサポートのパッドから取り出してください。

2） バックサポートの裏側のクリップ（写真 37）で肩部分のストラップを調整します。
→　4 点ベルトの場合は、ベルトを装着し、バックル部分をお子様の下腹部に置いてからベルトの長さを正しく調整するようにします。（写真 39）

ベルトの使用方法

1） ベルトのバックルの赤いボタンを押してベルトを外します。（写真 39- ①）

2） 肩と骨盤ベルトを開きます。

3） お子様をシートに座らせます。

4） 肩部分にベルトをかけます。（3.8.4.3　5 点ベルトの項を参照ください）

5） 両側のベルトタブをカチッと音がするまで、バックルに挿入します。（写真 38- ②、写真 44）

6．8．4．3　5点ベルト

骨盤と肩を更に安定させ、お子様がシートからずり落ちるのを防ぐ、5点ベルトの装着が可能です。（写真 39）バックルを使用しているので着脱が簡単です。

ベルトの調整方法

1） 股部のベルトはシート裏側の調整バックルで長さを調整できます。（写真 40）

2） 骨盤ベルトはバックル部分でベルトの長さの調節ができます。（写真 41）

アドバイス

● 骨盤ベルトがシートパッドの下に入っていた場合は、先ずバックサポートのパッドから取り出してください。

3） バックサポートの裏側のクリップ（写真 37）で肩部分のストラップの長さを調整します。
→　5 点ベルトの場合は、ベルトを装着しバックル部分をお子様の下腹部に置いてからベルトの長さを調整するようにします。（写真 39）

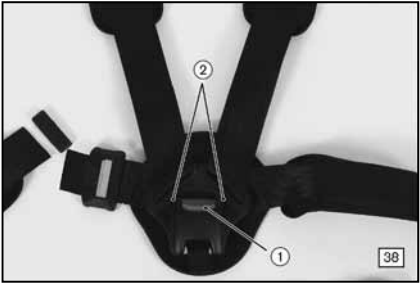
ベルトの使用方法

1） ベルトのバックルの赤いボタンを押してベルトを外します。（写真 39- ①）

2） 肩と骨盤ベルトを開きます。

3） お子様をシートに座らせます。

4） 肩部分にベルトをかけます。

5） 両側のベルトタブをカチッと音がするまで、バックルに挿入します。（写真 44）

6．8．5　姿勢保持サポート製品

警告

● 正しく使用しないとお子様の頸部を圧迫し、窒息の恐れがあります。取扱説明書の指示に従い、正しく使用されることで、お子様がバギーから落ちたり、シートからずり落ちることを防ぎます。ベルト類や姿勢保持サポートシステムを使用中はお子様の背中がバックサポートに対してまっすぐになっていることをご確認ください。お子様がベルト類や姿勢保持サポート製品がなくても座位を取ることができる場合は使用しないでください。

● 利用者を乗せた車いすやバギーを車に搭載して移動する際に、利用者用のシートベルトとしてベルト類を使用することは禁じられています。
ベルト類や姿勢保持サポート製品は利用者が車いす、バギーに座っている際に姿勢の保持をサポートすることを目的として、車いすやバギーに装備されているものです。
事故があった場合にお子様がバギーから投げ出される、重傷を負う場合があります。

さまざまな種類の姿勢保持サポート製品の装備が可能です。
製品はお買い求めになられた販売店により既に取り付けて納品されます。製品が小さい場合や装着できない場合は、納品後に調整が可能です。

6．8．5．1　パッド付胸部サポート

お子様の体幹の姿勢をサポートするパッド付胸部サポートの装着が可能です。（写真 45）
製品はお買い求めになられた販売店により既に取り付けて納品されます。

6．8．5．2　内転防止パッド

脚が体の中心から外転する（外側に開く）のをサポートする内転防止パッドの装着が可能です。（写真 46）
製品はお買い求めになられた販売店により既に取り付けて納品されます。

6．8．5．3　骨盤サポート

アドバイス

● 詳細情報は製品に同梱されている取扱説明書をご覧ください。

お子様の骨盤をしっかりサポートする骨盤サポートの装着が可能です。（写真 47）

製品はお買い求めになられた販売店により既に設定されて納品されます。

骨盤サポートの開き方

1） バックルを親指か人差し指でずらします。（写真 48）

2） バックルをずらしている状態でベルトを引き抜きます。

骨盤サポートの締め方

1）お子様をシートに座らせます。お子様の臀部がバックサポートまでしっかり収まっているのを確認します。

2）人差し指でバックルをずらします。（写真 48）

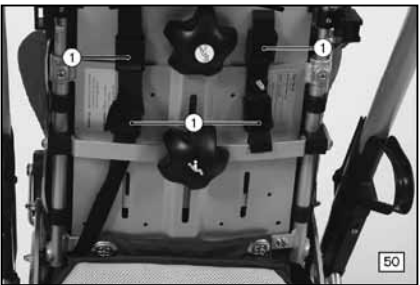
3）バックルをずらしている間にベルトを差し込みます。

⚠ 注意	● 骨盤サポートがしっかり締まっていないと骨盤が前にずれて正しくない姿勢を生み出したり、シートからずり落ちる可能性があります。お子様がシートに正しい姿勢で座っていることを確認してください。

６．８．５．４　胸肩ベルト

アドバイス	● 詳細情報は製品に同梱されている取扱説明書をご覧ください。

お子様の体幹の姿勢をサポートする胸肩ベルトの装着が可能です。（写真 49）
骨盤と体幹をまっすぐ、均整がとれた姿勢が取れるようにサポートします。
製品はお買い求めになられた販売店により既に設定されて納品されます。

胸肩ベルトの調整の仕方方法
シートの裏側にある 2 つのクリップで左右上下、それぞれのベルトの長さが調整できます。（写真 50- ①）

胸肩ベルトの使用方法

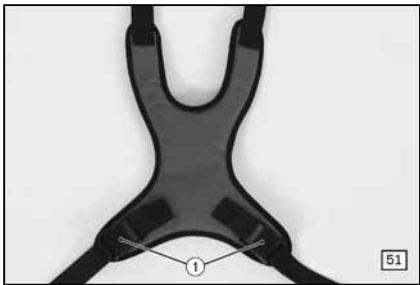
1）必要ならば、お子様をシートに座らせる前にシートの裏側にあるクリップ型のバックル（写真 50- ①）を外し、胸肩ベルトのパッド部分のベルトストラップを外してください。

2）パッド部分の下のベルトについているクリップ型のバックル（写真 51、写真 52- ①）を外して、パッド部分を持ち上げてください。

3）お子様をシートに座らせて、お子様の背中がバックサポートに対して真っ直ぐになっていることを確認してください。

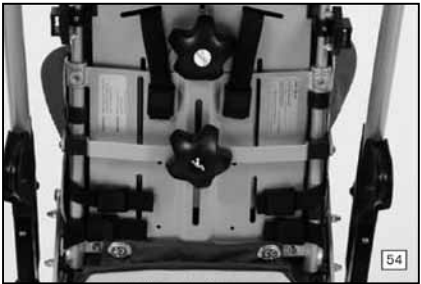
4）パッドをお子様の頭からかぶせるように装着してください。

5）パッド部分の下のベルトをクリップ型バックル（写真 51、写真 52- ①）に取り付けてください。

6）必要があれば、バックサポート裏側にあるクリップ型のバックル部分（写真 50- ①）でストラップを締めてください。
その際に骨盤部分のパッドが左右対称の位置にあることを確認してください。

⚠ 注意	● 胸肩ベルトのパッドが緩んでいるとお子様が前に倒れてしまい、正しくない姿勢になるだけでなく、お子様がバギーからずり落ちる恐れがあります。お子様がシートに正しい姿勢で座っているかを確認してください。パッド部分の下のベルトは骨盤に対してしっかりと止められているかを確認してください。（写真 52）

６．８．５．５　フィクセーションジャケット

アドバイス	● 詳細情報は製品に同梱されている取扱説明書をご覧ください。

お子様の体幹の姿勢をサポートするためにフィクセーションジャケットが装着できます。（写真 53）
フィクセーションジャケットでは骨盤はサポートされません。

フィクセーションジャケットの調整方法
お子様が装着されていて調整が必要な場合は、シートの裏側にある 6 つのクリップ型バックルでそれぞれのベルトの長さを調整できます。（写真 54）

1）ジャケットのチャックの上のベルクロのタブを外します。（写真 53- ①）

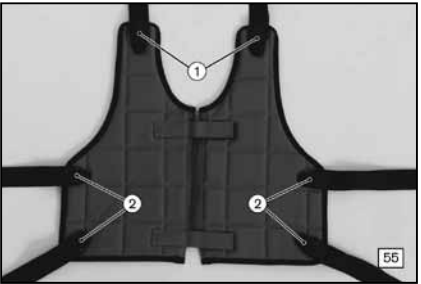
2）チャックを下げます。（写真 53- ②）

3）必要ならば、お子様を座らせる前に、シートの裏側にあるクリップ型のバックルを外してジャケット部分を引き出してください。

4）お子様をシートに座らせ、お子様の背中がバックサポートに対して真っ直ぐになっていることを確認してください。

5）チャックを閉めます。（写真 53- ②）

6）必要なら、バックサポート裏側にあるクリップ型のバックル部分でストラップを締めて、ジャケットを固定させてください。（写真 54）

7）チャックの上のベルクロのタブを閉じてください。（写真 53- ①）

アドバイス	● 毎日の使用ではフィクセーションジャケットはジャケット前についているクリップを使用して着脱が可能です。（写真 55- ①＆②）

6．8．5．6　股ストラップ

アドバイス	● 詳細情報は製品に同梱されている取扱説明書をご覧ください。

お子様の骨盤をサポートする股ストラップが装着できます。（写真 56）

股ストラップの調整方法
股ストラップを調整する必要がある場合は下記のように調整してください。

シートの裏側にある 2 つのクリップでそれぞれのベルトの長さを調整します。（写真 57- ①）

股ストラップの 2 つのクリップでそれぞれのベルトの長さを調整します。（写真 58- ①）

股ストラップの使用方法

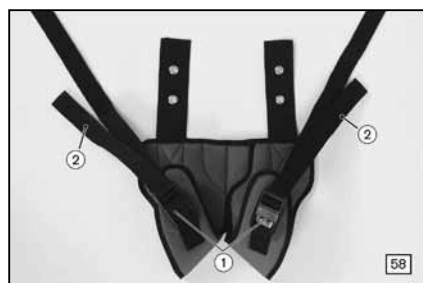
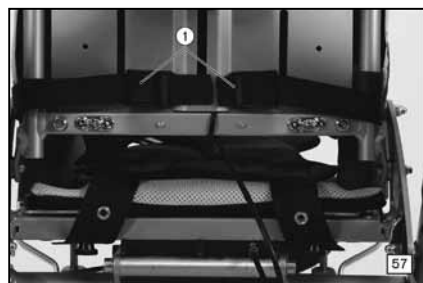
1） 必要ならば、シートの後側にある 2 つのクリップ型バックルを取外し、股ストラップ全体を前方へ引きます。（写真 57- ①）

2） 股の所の 2 つのバックルを取り外します。（写真 58- ①）

3） お子様を股ストラップの上に乗せて、股部分のストラップを大腿部が外側に開くように巻きます（写真 56）

4） バックルを止めます。（写真 58- ①）

5） 必要ならば、シート後側のバックル部分でもベルトを締めるようにします。（写真 57- ①）

6） ベルトの端を引張ることによっても股ストラップの長さを調整できます。（写真 58- ②）

6．8．5．7　フットベルト

お子様の足部をしっかりと正しい位置に置くためにフットプレートにフットベルトを装着できます。（写真 59）

フットベルトの使い方
ベルクロファスナーを開き、フットプレートに足を置きます。足部の周りにストラップをまわしベルクロでしっかりとめます。

6．8．6　前輪キャスターロック

アドバイス	● この製品はジョッギングやランニング、スケートをするようには作られていません、そのような状況で使用するとバギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがあります。

前輪キャスターロックを使用することで、前輪が固定でき不整地などでも安定して走行できるようなります。

前輪を固定させる方法
前輪上の樹脂カバーを前にスライドさせて前輪をロックします。（写真 60）ロックがかかる音がするまでバギーを前方に押します。

前輪の固定を外す方法
前輪上の樹脂カバーをシート側後方にスライドさせる（写真 60）ことでロックが解除します。

6．8．7　トレイ

⚠ 注意	● トレイを持ってシートやバギーを持ち上げないでください。バギーが転倒することや、お子様が落ちる恐れがあります。 ● トレイの上には重いものを置かないでください、トレイが壊れる恐れがあります。

アドバイス	● トレイはオプション製品であるアームサポートや手すりと一緒には使用できません。 ● トレイはシートが対面式になっている時には使用できません。

トレイはシートに直接取付けられていますので、トレイをつけたままシートの向きを変えることはできません。

トレイの取付け
取付け台にトレイの両端を押し込みます。トレイのパイプのスプリングストッパーを押し（写真 61 - ①）、スプリングストッパーのロックが掛るまでトレイを押下げます。

トレイの取外し
取付け台の下のスプリングストッパーを押し（写真 61 - ①）、トレイを取付け台から引き上げます。

トレイの位置調整方法

1） 高さ調節：4㎜の六角レンチを使用してネジを緩め（写真 61- ②）、トイレが水平になるように両側を同じ高さに調整し、ネジを締めます。

2） 縦幅の調整：トレイの右下にあるレバーを反時計回りにまわして緩めて、トレイを動かし希望の位置に設定し、レバーを時計回りにまわして固定します。（写真 62- ①）

3） 角度の調整：トレイの右下にあるレバー反時計回りにまわして緩めて、トレイの角度を変えて（写真 62- ②）、レバーを時計回りにまわして固定します。

６．８．８　布製サンルーフ　レインカバー付

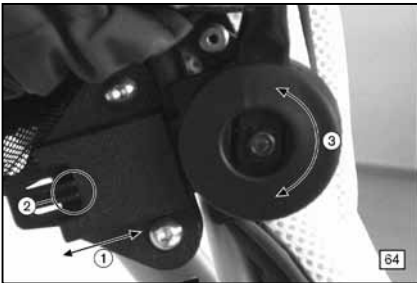
> ⚠ 注意
> - ● サンルーフを開いたり、閉じたりする時に指を挟む恐れがありますので、折り畳み機構には手を触れないようにしてください。
> - ● サンルーフが壊れる恐れがありますので、バギーを折りたたむ前にはサンルーフを取り外してください。また、サンルーフが傷む恐れがありますので、長期間バギーを保管する場合にはサンルーフを取り外してください。

お子様を日差しや雨から守るために、サンルーフの使用が可能です。（写真 63）

サンルーフの取付け

１）バックサポートの角度を直角にしてください。

２）サンルーフバックル部受けを動かして、サンルーフを左右平行になるように設置してください。（写真 64）

３）サンルーフの取付けバー（写真 64 - ②）をカチッと音がするまでバックル（写真 64- ①）へ押しこんでください。

サンルーフの角度調整

サンルーフを折りたたみ、サンルーフの上部を持ち、前に押したり、後ろに引くことで角度を変えることができます。ロックは自動的にかかります。（写真 64- ③）

サンルーフの取外し

１）バックサポートの角度を座面と 90゜にします。

２）サンルーフの取付けバーを軽く押しながらバックルからサンルーフを取り外します。バーを抜いて、サンルーフを取り外します。

サンルーフ（レインカバー付）の特徴

サンルーフの天井の窓の部分を開けることにより、お子様とコンタクトを取ることができます。

サンルーフ内に熱がこもった時など、換気を良くするために後ろの部分を取り外すことができます。（写真 66）

レインカバーは後ろのポケットに保管できます。

６．８．９　レインカバー（布製サンルーフの付属品）

> ⚠ 注意
> - ● レインカバーが傷む恐れがありますので、装着中は車輪に巻き込まれないように注意してください。

お子様が雨に濡れないようにレインカバーを装着できます。（写真 67）

レインカバーはサンルーフの後のポケットに保管できます。（写真 68）

レインカバーの使用方法

１）サンルーフの後ろポケットからレインカバーを取り出します。

２）サンルーフの上からフットプレートまでをレインカバーで包みます。空気が入るようにお子様の顔の部分は開けておいてください。（写真 67- ①）

６．８．１０　夏冬用スリップサック

> ⚠ 注意
> - ● 夏冬用スリップサックが傷む恐れがありますので、装着中は車輪に巻き込まれないように注意してください。

夏冬兼用のスリップサックの装着が可能です。（写真 69）
冬用の暖房用サックはファスナーから着脱してください。

スリップサックを装着する

１）スリップサックをバギーの上に置きます。

２）安全ベルト、内転防止パッド /5 点ベルトや股ストラップを使用している場合は、スリップサックの下にある固定用の穴からベルトを通して固定してください。

シートの角度等を考慮してスリップサックを紐で固定してください。

３）→　後：シートプレート部分で固定（写真 71- ①）
　　→　前：フットプレートのバーの部分で固定（写真 71- ②）

スリップサックの使用方法

１）必要な場合はファスナーで冬用の暖房用サックを取付け、取り外してください。

２）チャックを開けて、お子様を乗せます。

３）チャックを閉じます。

６．８．１１　フレームパッド

お子様が開閉機構に手などを挟み込まれないようにするためにフレームパッドを使用できます。（写真 72）

フレームパッドの使用方法

１）フレームパッドを開閉機構の周りに巻いて、ベルクロファスナーで留めます。

２）ベルクロストラップを下に向け、パッドで開閉機構の周りをおおいます。

アドバイス	● キンバフレームをたたむ前には開閉機構が機能するようにフレームパッドを取外します。

６．８．１２　アンダーバック

⚠ 注意	● アンダーバックが傷む恐れがありますので、装着中は車輪に巻き込まれないように注意してください。 ● アンダーバックの耐荷重は 7Kg ですので、それ以上の重さの物は入れないでください。

アンダーバックの取付け

１）アンダーバックはボタンホックとベルクロファスナーで留めることができます。（写真 73 ー①、74 ー①）

２）アンダーバックは清掃のために取り外すことができます。

６．９　バギーの収納／運搬

⚠ 警告	● 手の負傷の危険　バギーの折りたたみの際には、手や指のはさみ込みに充分ご注意ください。
⚠ 注意	● 折りたたみ時の取扱い　折りたたんだ状態のバギーの上には重いものを絶対に置かないで下さい。フレームなどの変形や、バギーを正しく開くことができなくなる可能性があります。

アドバイス	● フレームには他のシーティングシステムを取り付けることも可能です。この場合は使用するシートユニットの取扱説明書を良くんで守ってください。

バギーは車等での運搬のために下記の手順で折りたたむことができます。
標準シートユニットを付けたまま折りたたむ場合（写真 75）
コンパクトにするために標準シートを取り外して折りたたむ場合（写真 76）

１）フットプレートを上に折りたたみます。
（18 ページをご参照ください。）

２）シートユニットを取り外します。
（13 ページをご参照ください。）

アドバイス	● フシートが対面式に設置されている場合は、シートを取り外さないと折りたたむことはできません。

３）折りたたみ用フックを上に引き、開閉機構のロックを解除します。（写真 77）

４）バギーを折りたたむようにプッシュハンドルをシートの上に折り曲げます。

５）プッシュハンドルを折りたたむことで、よりコンパクトにできます。（11 ページ）

６）後輪タイヤのロックを押して、後輪タイヤを取り外します。
（写真 3- ①）

６．１０　車への搭載

⚠ 警告

● バギーに乗せた状態のまま車で移動し、事故にあった場合には重大な怪我を負うことがあります。
車いす搭載可能の車を利用して移動する際は、バギーに乗ったままでなく車のシートを利用して移動することが、事故にあった場合にご利用者を理想的に守ることができる唯一の方法です。

● キンバマルチファンクショナルシートユニット（標準仕様）がキンバフレームに装着している場合のみ、お子様を乗せて車いす搭載可能な車で移動することができますが、その他のシーティングユニットを使用している場合はバギーを使用しての車での移動は避けてください。

● キンバ呼吸器フレーム（耐荷重 90kg）については、固定のためのフックが付いていますが、このフックは車載用フックではありません。車での移動は避けてください。

● 製造メーカーから安全パーツが供給され、適切な安全システムを装備した車いす搭載可能の車でのみ移動が可能になります。

● 車いす搭載可能の車を利用される場合は、乗る前に取り付けられている幾つかのオプション製品を取り外してください。（オプション製品の使用に関しては 6.10.1「バギー搭載のための条件」の項を参照ください。）

● 原則としてバギーを使用して車いす搭載可能の車に乗る時はシートが正面を向く方向で乗ってください。（6.10.3「シートユニットの調整」の項を参照ください。）

● 原則としてバギーを使用して車いす搭載可能の車に乗る時にはシートユニットが水平に安定していること、バックサポートを垂直にロックしてください。（6.10.3「シートユニットの調整」、6.10.4「安全なシート角度と調整の仕方」、6.10.5　「安全なバックサポート角度と調整」の項を参照ください。）

⚠ 警告

● 車いす搭載可能の車で移動する際には耐荷重が守られないと事故にあった場合に重傷を負う恐れがあります。
バギーを使用して車いす搭載可能の車で移動する場合には下記の耐荷重を守ってください。
→　キンバ ネオ　サイズ 1：お子様の体重が 27kg まで
→　キンバ ネオ　サイズ 2：お子様の体重が 40kg まで
車に乗る時はアンダーバックの中には何も入れないでください。

⚠ 警告

● 車いす搭載可能の車で移動する際に、安全ベルト等をお子様のシートベルトとして使用しないでください。事故にあった場合にお子様がバギーから投げ出されて、重傷を負う恐れがあります。

車いす搭載可能の車で移動する際に、安全ベルト類、姿勢保持サポート製品類をお子様用のシートベルトの一部として使用しないでください。
安全ベルト類や姿勢保持サポート製品類はバギーを使用する際に姿勢保持をサポートすることを目的に作られていることをご理解ください。

６．１０．１　バギー搭載のための条件

適正な安全システムが使用されている場合に限り、車いす搭載可能の車で移動のためにバギーを使用することが可能です。

車で移動する前に下記のオプション製品を取り外してください。
・サンルーフ
・手すり
・トレイ
・チャイルドケアバック
・「テクノ」バギーボード

６．１０．２　必要なオプション製品

車いす搭載可能の車で移動する際に、安全のためにベルトセットが必要になります。
キンバフレームにベルトを取付けてください。
（前方：写真 79- ①、後方：写真 79- ②）

ベルトセットは他の製造メーカーから入手できます。入手先に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問合せください。

６．１０．３　シートユニットの調整

車いす搭載可能の車で移動する前に、バギーのシート向きを走行方向に向けなければなりません。

シートの向きを変える方法は 6.2.1「シートユニットの取付け／取外し」の項をご参照ください。

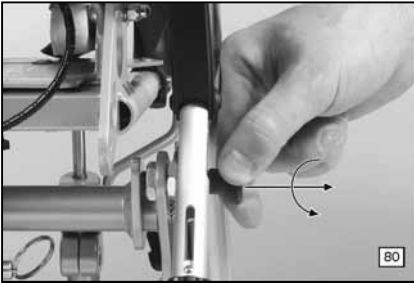
６．１０．４　安全なシート　チルト角度と調整の仕方

ロック機構を働かせる

車いす搭載可能の車で移動する前に、安全のためにシート角度を水平に調整しなければなりません。

１）バックサポート裏側の上のノブを右側にまわして、シート座面を調整し、シートを水平にします。
（ページ 16　6.2.5「シートのチルト角度の調整」の項を参照ください。）

２）ロックピンを引き、左側にまわして再び押し込みます。（写真 80- ①）
→ロックピンが作動します。（写真 81- ①）

３）シートアダプターをロックピンの上に傾けます。（写真 81- ②）
→シートアダプターがロックピンにしっかり固定されます。

ロック機構を解除する

車での移動を終えた後には、シートのチルト角度調整ができるようにロック機構を解除してください。

1） ロックピンを引き、回してロックアダプターが外れたことを確認してください。（写真 82）

2） ロックピンが外れて（写真 83- ①）、バックサポート裏側の上のノブを回してシートの角度調整ができるようになります。
ピンを引き右側に曲がっている状態でロックが解除されます。
（写真 86- ②）

3） 下のノブを右側にまわして、背角度を固定します。（6.2.4「バックサポートの角度調整」の項の写真 16 を参照ください。）

６．１０．５　安全なバックサポート角度（リクライニング角度）と調整の仕方

ロック機構を働かせる

車いす搭載可能の車で移動する前に、安全のためにバックサポートの角度を垂直の状態でロックさせなければなりません。

1） バックサポート後側のノブを左側にまわして、バックサポートを垂直に調整します。
（6.2.4「バックサポートの角度調整」の項の写真 16 を参照ください。）

2） ノブを約 5 mm左側にまわすと安全ネジが出てきます。

3） ノブを右側にまわして、背角度を固定します。

4） ノブの内側にある安全ネジを引き、約 90° まわし（写真 85）、安全ネジにある突起を縦穴に対して水平にすることで（写真 86- ①）、ロックが掛ります。

ロック機構を解除する

車での移動を終えた後には、バックサポート調整ができるようにロック機構を解除してください。

1） バックサポート後側の下のノブを安全ネジが出てくるまで、左側にまわします。

2） ノブの内側にある安全ネジを引き、約 90° まわし（写真 85）、安全ネジにある突起を縦穴に押し込むことでロックが解除されます。（写真 86- ②）

3） 下のノブを右側にまわして、背角度を固定します。
（6.2.4「バックサポートの角度調整」の項の写真 16 を参照ください。）

７章　メンテナンス、清掃と消毒

７．１　メンテナンス

原則として、毎回ご使用の前にブレーキの効きをはじめとする、バギーの動作機能については念入りに検査、点検をしてください。走行時の異常やバギーの不安定さなどの異常、座位の問題、パーツの摩耗等に気づいた場合には、直ぐに使用を中止し、バギーをお買い上げいただいた販売店に連絡してください。１２ヶ月に一度、お買い上げいただいた販売店で、整備点検を行うことをお勧めします。

下記に示したリストは、介助者に定期的に行っていただきたい点検項目です。

点検項目	毎回乗車前	毎週	毎月
折りたたみ機構の摩耗していないか			●
シートユニットがフレームにしっかり装着されているか			●
シートのチルトリクライニング機構のロックが作動しているか	●		
シートについているノブがしっかり作動しているか			●
後輪タイヤのクイックリリース機構がしっかり作動しているか	●		
後輪タイヤがスムーズに動いているか			●
ブレーキがしっかり作動しているか	●		
タイヤの減りは適正か（最低　１mm）			●
前輪キャスターがスムーズに回転しているか			●
フットサポートがガタついていないか、フットサポートの角度調整が正常に作動しているか			●
オプション製品が摩耗していないか			●
パッドが正しい位置にあるか			●
ベルトが摩耗していないか		●	
バックルがしっかり作動するか	●		
ベアリングが汚れていないか			●

- バギーの機能を維持するために、介助者は、以下の点を点検整備してください。
- キャスター（前輪）とキャスター軸の間は、毛髪や、汚れが詰まりやすい部分です。これにより、走行時の抵抗が高くなり、バギーの動きが重くなります。キャスター軸の周りのごみを取除き、中性洗剤などを含ませた布でキャスターをきれいに拭いてください。
- 後輪はクイックリリースシステムが装備されています。この動作機能を維持するため、クイックリリース軸や、軸受けにゴミや汚れがたまらないように注意してください。
- バギーが水に濡れた場合には、水気をふき取り乾かしてください。
- バギーが海水など塩分を含んだ水に濡れないよう、気をつけてください。また、砂や、細かい汚れが車軸受けなどに入らないよう、ご注意ください。
- 特に使用開始直後や、バギーの設定を変えた後などは、ネジの状態などに注意してください。もし、ネジが緩んでいるような場合は、自分で締めることはせず、できるかぎり販売店に相談してください。

7．2　清掃と消毒

7．2．1　マルチファンクションシートユニットのパッド類の着脱

アドバイス

● その他のシーティングシステムを使用する場合は、使用されるシーティングシステムの取扱説明書を良くお読みになって、守ってください。

1）パッド類はバギーの清掃、メンテナンスのために取外すことができます。

2）バックサポートの裏側下端にあるシート用のロックを解除してください。

3）バックサポートのパッドのチャックを開けて（写真 87）、パッドを取り外します。

4）シートクッションを持ち上げて、シートプレートのベルクロファスナーから取り外してください。（写真 88）

5）側面、フレーム、サポートパッドのベルクロファスナーを取り外してパッド類を取り外してください。

6）メンテナンスが終了しましたら、パッド類をもとに戻してください。

7．2．2　清掃

1）フレーム部分とプラスチック部分は中性洗剤を使用して清掃してください。

2）パッド類は濡らした布で汚れた部分を拭いてください。汚れのひどい時は 30℃のぬるま湯で洗ってください。又は洗濯用の袋または枕カバーに入れて洗濯機で洗ってください。

重要な情報
強い洗剤や、溶剤、硬いブラシなどはご使用にならないでください。

7．2．2　消毒

製品の全ての部分を消毒剤で拭いてください。

重要な情報
水溶性の消毒剤は使用できますが、製造メーカーの使用説明書を守ってください。
パッド類やハンドルを清掃してから、消毒作業をおこなってください。

8章　テクニカルデータ

屋外用フレーム	サイズ1	サイズ2
全幅	60cm	70cm
前輪タイヤ径（前輪自在キャスター）	17cm	17cm
前輪タイヤ径（前輪固定）	28cm	28cm
後輪タイヤ径	28cm	28cm
プッシュハンドル　高さ　（最低／最高）	71cm/116cm	71cm/116cm
シートチルド角度　（最少／最大）	-35°/+10°〜-10°/+35°	-35°/+10°〜-10°/+35°
耐荷重＊	10.5kg	11.5kg
アンダーバック耐荷重	7kg	7kg
重量	10.5kg	11.5kg
折りたたみサイズ：シートなし　（奥行 X 幅 X 高さ）	79 x 60 x 46cm	79 x 67 x 47cm
折りたたみサイズ：シートあり　（奥行 X 幅 X 高さ）（シート前面チルト角 10° リクライニング 100° の場合）	90 x 60 x 53cm	97 x 67 x 59cm

マルチファンクションシートユニット	サイズ1	サイズ2
座幅	19 〜 31cm	24 〜 40cm
座奥行	20 〜 30cm	26 〜 35cm
背高	41 〜 61cm	56 〜 70cm
リクライニング角度	80°〜 180°	80°〜 180°
肩ストラップの取付け高さ　（最低／最高）	30/45cm	30/45cm
肩ストラップ取付け位置の幅	5cm	5cm
下腿長	19 〜 31cm	20 〜 37cm
耐荷重	40kg	40kg
重量	7.5kg	8.0kg
折りたたみサイズ：ラテラルサポート付（奥行 X 幅 X 高さ）	58 x 37 x 42cm	59 x 43 x 58cm

＊耐荷重は屋外用キンバフレームとシーティングユニットによって違ってきます。
シーティングユニット（耐荷重 40kg）＋シーティングユニットサイズ 1 の重量（7.5kg）=47.5kg
屋外用キンバフレーム（耐荷重 55kg）-　シーティングユニット総耐荷重（47.5kg）=7.5kg：その他のオプション製品＋アンダーバックの耐荷重（7kg）

ここに上げられた数値は理論上算出された寸法です。全てのバギーで全ての設定が可能と言うわけではありません。同様に、設定の組合わせは、フレームの形態により、制限されることがあります。機械的差異としては、５％以内を保持しています。

9章　オットーボック社製品の保証条件

保証対象：
本取扱説明書にしたがって正しく使用された場合にのみ、保証の対象となります。
製品の保証内容は、保証書に記載されています。

製品の安全性：
この製品は EU の 93/42/EEC 規格の要綱を満たしています。また、それに伴い、自社および検査機関における安全性に関する適合試験を実施し、すべての検査要綱の条件を満たしていることを宣言します。

損害賠償責務：
製造元は、製品が定められた条件のもと、定められた目的に使用された場合にのみ責任をとります。
製造元は、製品が適切に、説明書従い使用され、点検されることをお勧めします。製造元が許可していないパーツや付属部品が原因の損害については、製造元は損害賠償責任を負いません。修理は、公認された販売店か製造元自身に依頼してください。

１０章　再利用情報

再利用と廃棄処理について

注意	● **不適切な利用による危険**　シートユニットなど直接肌に触れる部分は、製品の再利用の際に、次に利用者される方に、機能上あるいは衛生上の危険を引き起こす可能性があります。再利用の際には、必要に応じてこれらの部品を交換してください。

廃棄について
磨り減った、または損傷した部品は交換、撤去してください。廃棄の際は、地域の廃棄基準に従い行ってください。

サービスについて

オットーボック製品のサービスや修理は、販売店に依頼してください。適合などに不具合等がある際にも販売店にお問合わせください。

オットーボック社取扱店

オットーボック・ジャパン株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F
TEL：03-3798-2111（代表） FAX：03-3798-2112
www.ms.ottobock.jp